atelierTAIK.

atelierGANGU

www.ateliergangu.com

Rose På Mølndal

www.rosepamolndal.com

ほんのわずかなことでも、いまよりも良くなる方法が必ずあります。名刺1枚、封筒1枚でもいろいろな事が変化します。デザインとは目的ではなく、プロセスでしかありません。

私たちの考えるデザインプロセスは、「もの」と「こと」を常に考え、整え、磨き、育てること。依頼されたものごとの適正な質を吟味し、その周囲環境を熟慮して、進むべき方向や可能性を視覚メインの表現物として昇華させていきます。様々な業種の方と同じ土俵で議論、思考、飛躍を繰り返し、より解決の方向へとデザインのプロセスを駆使したいと考えております。

共同代表である臼田、飯島を中心に、グラフィックデザイン、ブランド構築・醸成、パッケージ開発、各種印刷物などデザイン全般を請け負います。

atelierTAIK.

リュードヴァン〈ワイナリー〉

Rue de Vin ｜ 2007年～（継続中）

総合ブランディング
コーポレート・ブランドシンボルマーク
パッケージ、ラベル
カタログ、パンフレット
WEB サイト

ワイン醸造家の小山さんは長野県東御市に自ら葡萄を育て、ワイナリーをつくり、ワインが地域の文化として根付くよう働きかけています。その名の通り Rue de Vin（ワインの道）をつくろうとしているのです。東御の自然や葡萄畑で見つけたモチーフから成る装飾文様が道をつくっていきます。ブランドの色彩は小山さんの思い入れのある凛とした青、地中海の海の色「ブルーメディティラネ」と日本の「憲法色」をキーカラーとしました。生立ちはそれぞれの文化に根ざしながら、この1本のワインに昇華し、ワイン文化の土壌を形成してくれますようにとの思いが詰まっています。
数十年後、どこかの国の人がこのボトルを手にした時に、「美味しそうな間違いないワインだ」と直感し、「どうやら Japan でつくられたみたいだ」と思ってくれるようなラベル、情報伝達をデザインの軸にしました。そして、小山さんの未来像は100年先を見越しているため、ワインの樹とともに成長できるラベルとなるように、大きめの余白をあえて残しました。

ラインナップ

肉の万世〈レストラン〉

Mansei ｜ 2004年～(継続中)

総合ブランディング
ロゴタイプ、ブランドシンボルマーク
パッケージ、包装、各種販促物
店舗備品、販売アイテム
商品企画

キャラクターデザイン：林義雄

「万かつサンドの初めてのポスターを作ってほしい。しかも10年使えるデザインで」との依頼が肉の万世さんからの初の仕事でした。そこで私たちは、万世の歴史を紐解く事からはじめました。すると、万世という会社そのものの成り立ちや、歴史に名を残す画家や作家たちとの関係など、興味深く魅力溢れるコンテンツでいっぱいであるという事に気がつきました。
まずは、しばらく表立って使われていなかったオリジナルキャラクターのモーちゃんブーちゃんたちに改めて活躍してもらうことにしました。モーちゃんブーちゃん産みの親は、その昔キンダーブックなどで武井武雄さんらと共に多くの童画を手がけた作家、故・林義雄さんですが、そんな生まれの良い彼らが80～90年代の荒波センスにもまれて、出番を失っていたのです。
ですが私たちは、いつの時代も変わらない「家族で食べるあったかいごちそう」の店である万世にとって、モーちゃんブーちゃんの体現する世界観こそが、これからも万世の軸足となるであろうと考えました。そして万世の主力商品である「万かつサンド」のポスターにこそ、その力が必要であると。このポスターには商品自体の写真やイメージは全く使用していません。それは、万かつサンドという、歴史と共に生きてきた商品だからこそ可能でした。そうやって、誕生から50年目にして初めて喋り出した彼らの「万かつサンド連作ポスター」が生まれました。
その後、万世のブランドの根幹を形創る作業として、会社のマークの使い方や様々な社内外のツール、オリジナル商品のパッケージや紙袋・包装紙などのデザインディレクションに関わる事となりました。

万かつサンド 連作ポスター全4種

万かつサンドシリーズ
万世ホームレストランシリーズ

ミルクチップ

モーブーマグネットセット（商品企画含む）

ショッピングバッグ

ホッピービバレッジ〈飲料メーカー〉

Hoppy Beverage ｜ 2001～2005年（一部継続中）

総合ブランディング
コーポレート・ブランドシンボルマーク
ラベル、パッケージ
販促、広報アイテム

「ホッピーの初めてのポスターを作ってほしい」との依頼がホッピーで最初の仕事となりました。そして出来上がった真四角なポスターは現在まで増刷を重ね、はや17年が経ちました。その他55周年を記念して誕生した55HOPPYラベル、ボトルを大切にするホッピー社ならではのコーポレートマークなど。
東京の飲んべえなら誰にもおなじみのホッピーですが、私たちは今までのホッピーらしさを大切にしつつ、若い世代のお客様にも新鮮な印象を与えるように意図しデザインしました。

赤提灯だけではない新しいホッピーの一側面を提案しつつも、不思議と懐かしさを感じさせると好評を得、特にそれまでホッピーを知らなかった、あえて飲まなかった層にもアプローチする事が出来ました。また、時代時代で適当になってしまっていたおなじみの「ホッピー」ロゴマークを整え、現代に通用するクオリティに改良しました。
そして、リターナル瓶を大切にしているホッピー社の精神を汲んだコーポレートマークをデザインし、ホッピー社員の胸に輝く社章も作りました。

ポスター　40×40cm

ロゴマーク・ロゴタイプ

短冊ポスター

量販用リターナル瓶 リーフレット　全12種

55ホッピーリーフレット

55ホッピー

深大寺ビール

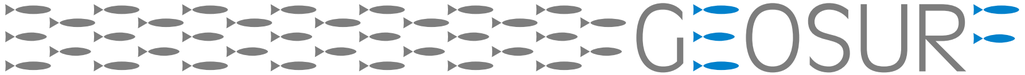
配送用トラックデコレーション

ジオサーフ〈ITソリューション〉

GEOSURF ｜ 2008年～(継続中)

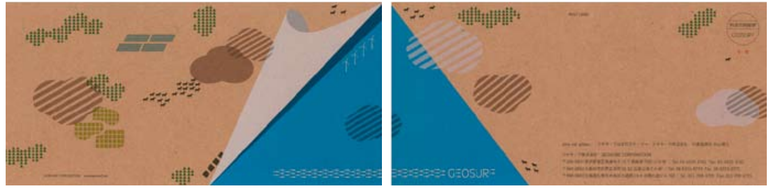
総合ブランディング
コーポレート・ブランドシンボルマーク
会社案内、名刺、封筒
DM、ノベルティ
WEB サイト

人工衛星を使った地球の測位システムなどを提供するハイテクな会社「GEOSURF」。
スタートアップに合わせ最初に着手したのはコーポレートロゴマークです。まず、アルファベットEとFから回遊魚が生まれました。回遊魚は躍動的に地球上を泳いで、ネットワークを構築し、群れ・パターンとしての統合へ向かいます。回遊魚の群れの流動的美しさ、謎めき、ダイナミズムをコーポレートマークの象徴として捉えました。その後、名刺や封筒などのツールや、複雑な事業内容を一目で可視化できる、イラストを多用した簡単な冊子を作りました。



コーポレートマーク

会社案内



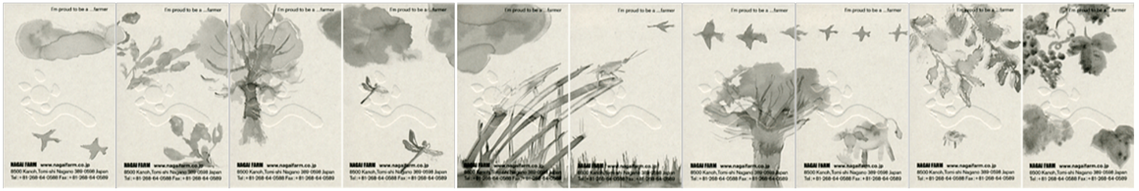
ニューイヤーカード

永井農場〈農業〉

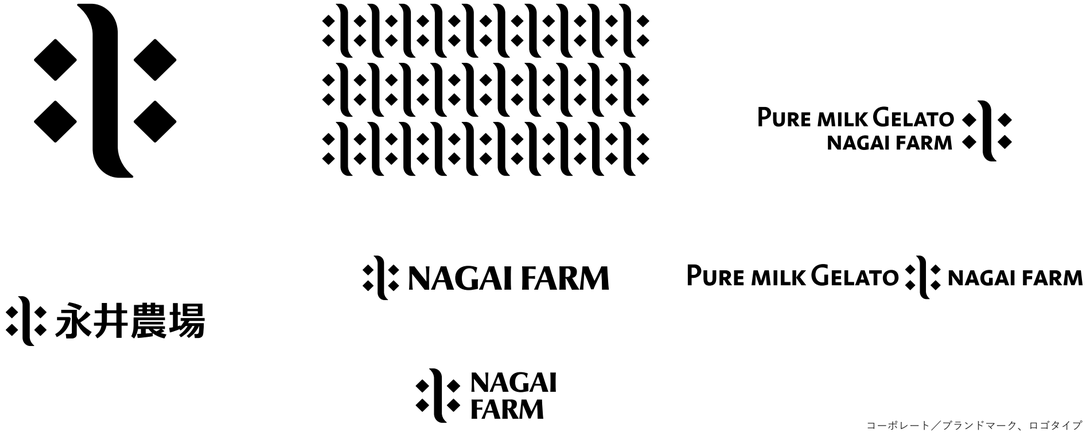
Nagai Farm ｜ 2005年～（一部継続中）

コーポレート・ブランドシンボルマーク
名刺・封筒
パッケージ

長野県東御市の永井農場は、有機リサイクル農場として次々と新しい試みに取り組んでいます。お百姓さんでありながら、企業の顔としても成り立つようにと新しいシンボルマークが誕生しました。
永井農場さんのロゴを作成するにあたって、まずは「永井」を調べてみる事からはじめました。その字源によりますと、「永」は水の流れを示すとあり、「井」はいげたの形で、水をせき止め区画し作物を育てるとありました。（字統／白川静）まるで、示し合わせたかのような解説で、この名字をもつ永井さんが農場を営んでいるとは、あまりにもできすぎな話で吃驚興奮したのを今でも思い出します。
「流れ」と「区画」から、とまらずに連続して音符のように作物が生まれてくる、というイメージでデザインを進行させました。この１つのモジュールを上下左右に連ねる事で、装飾タイルのように農地が広がっていきます。また、コーポレート色を決めるにあたって、農場の周囲や作物には豊かな色彩世界が広がっていますので、あえて特別な色を指定せず、太陽の光から生まれる「影」である黒を基本としました。



名刺



コーポレート／ブランドマーク、ロゴタイプ

社名刺、社封筒

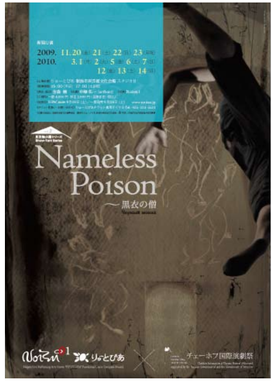
ニューイヤーカード「百姓は百色だ」

ヴィンテージジャムラベル

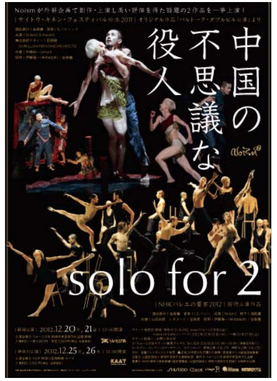
りゅーとぴあ
新潟市民芸術文化会館
専属ダンスカンパニー「ノイズム」
〈ダンスカンパニー〉
Noism ｜ 2009年～（一部継続中）

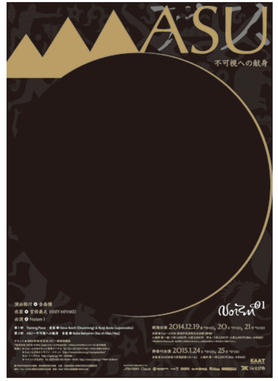
広告、パンフレット、機関誌など

新潟発、日本で初めての劇場専属プロフェッショナル・ダンス・カンパニー、Noism ／ノイズム。「新潟市民芸術文化会館 りゅーとぴあ」芸術監督、金森穣の真摯な希望を受け止め、毎回、難題な課題と向き合っています。2009年にはフリーペーパー「にいがただからだ」を創刊し、一人でも多くの人が訪れてくれること、新潟に劇場文化を根付かせることを目標とし、地域全体を巻き込んで文化の種を蒔いていこうと思っています。



各種公演ポスター





にいがただからだ／フリーペーパー

ハイメックス〈製造〉

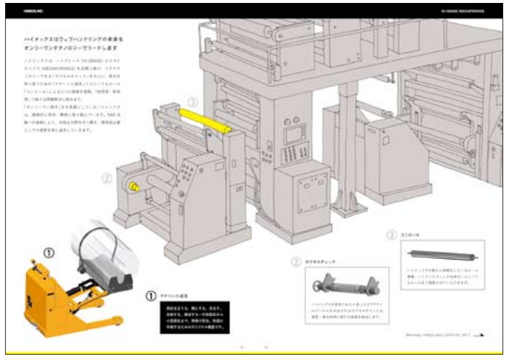
Himecs ｜ 2016年～〈継続中〉

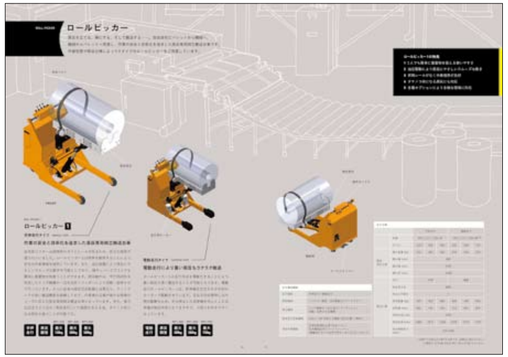
カタログ

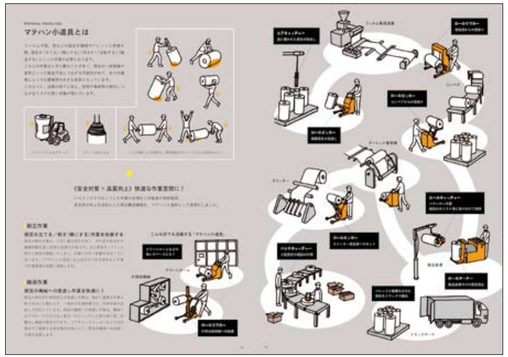
ハイメックスは東久留米の地で創業された、他に類をみない技術と製品を生み出しているオンリーワン企業です。依頼を受けたのは「マテハン小道具」のカタログなのですが、いったい何なのか？　正直申しますとここで簡単に説明する事はとても難しいです。この依頼を受けたとき、社員さんでもほとんど説明ができず、つくっている製品全てを解説できるのは社長さんのみでした。そこで「この一冊を見れば、たとえ言語が分からなくても大凡の想像がつく」を最終目標としました。

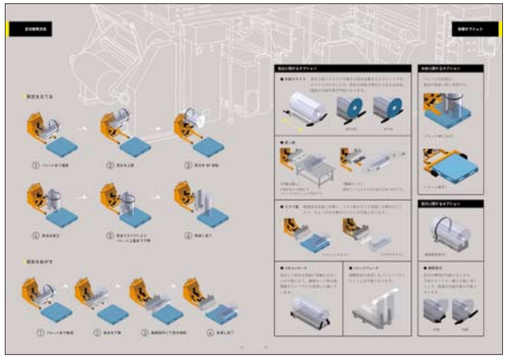
商品カタログと言えば必ず写真を使います。しかしハイメックスさんはほとんどの製品がオーダーメードであり写真資料が残っていないため、カタログ用の画像資料がまるで存在しない状態でした。実際の商品をイメージできるものは設計時の CG 画像のみ。そこであえて写真を使用せず、これらの CG 画像を「主役」とし、実際に活躍している工場などの現場イメージをイラストで起こしていきました。イラストで架空世界の現場を描く事で実際のリアリティを想像してもらえるように。何度もやり取りを繰り返し1年半以上かかりましたが、最後にはうちのスタッフ全員が「マテハン小道具」を解説できるほどに詳しくなっていました。

マテハン小道具カタログ









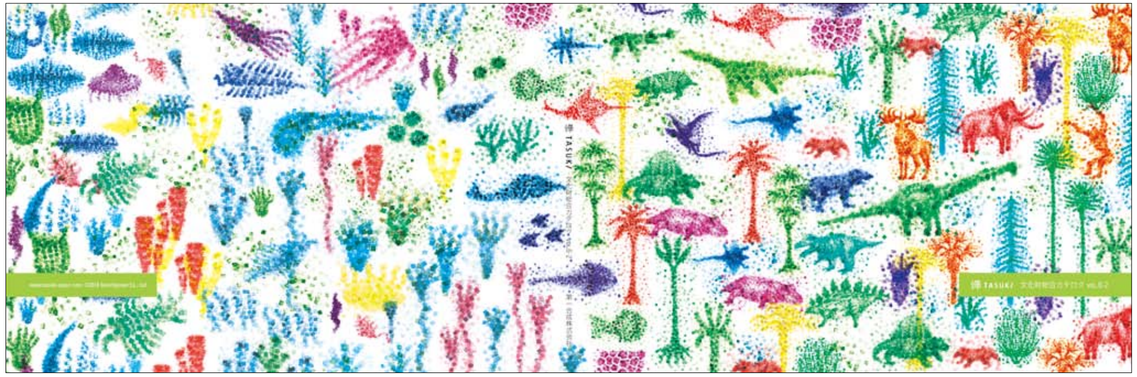
第一合成〈製造〉

Daiichigosei ｜ 2016年～(継続中)

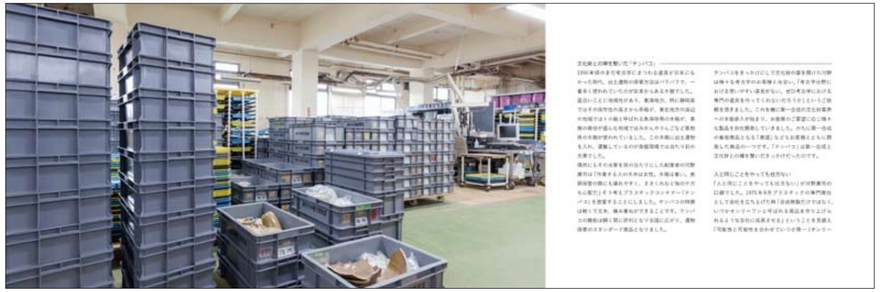
ブランド広報イメージ
カタログ

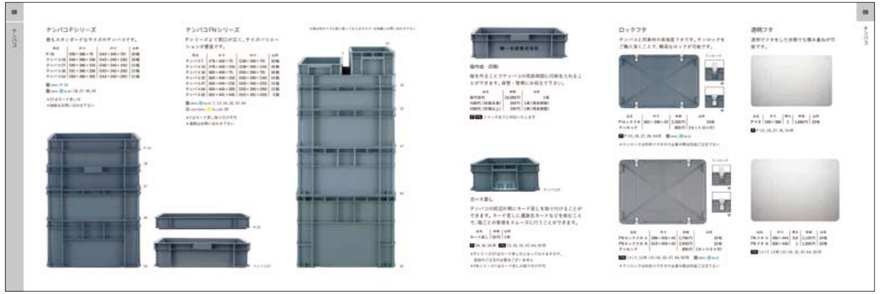
カメラマン：矢野信夫

「真弧(まこ)」という道具をご存知でしょうか？　東京・八王子に本社がある第一合成が、日本の職人さんの確かな技術で作っているこの道具は、地中から発掘された土器などのフォルムを正確に紙に写し取るもので、日本のみならず、世界の考古学、文化人類学の研究者から絶大な信頼を寄せられています。最初にご依頼いただいたのは、真弧の展示用ポスターバナー。今回、幸運にも同じく八王子にある郷土資料館にご協力をいただき、真弧が日常的に使われているまさにその現場で、本物の縄文土器を用いて撮影することができました。
しなやかな竹の描き出すカーブが、太古の人々の手仕事の痕跡を写し取る様の美しさ、そして時間や空間を超えて現代の私たちが土器と対峙していることの不思議。カメラマンの矢野さんと、現場の空気を損なわないように作り上げた空間に、真弧と土器が出会う瞬間の奇跡をドキュメントのように切り取りました。
文化財総合カタログでは人類が創造したさまざまな文化・文明とその文化財の源にあるもの。宇宙に誕生した地球の混沌とした生命のスープに始まり、生物の進化、人類の発展、そして未来までを感じさせる悠久の時をテーマとし、「四角」を使って描いています。この「四角」は幾何学的な基本単位でもあり、第一合成の主力商品、文化財を守る四角い整理用ケース「テンパコ」をも表しています。



文化財総合カタログ



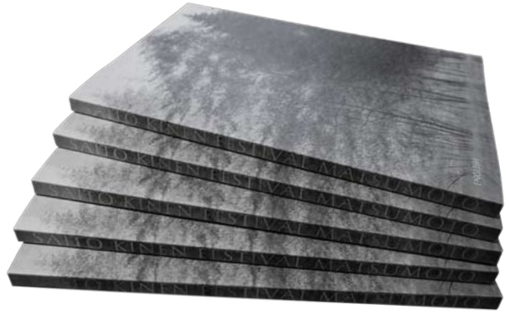


展示会用バナー

サイトウ・キネン
フェスティバル松本〈音楽祭〉

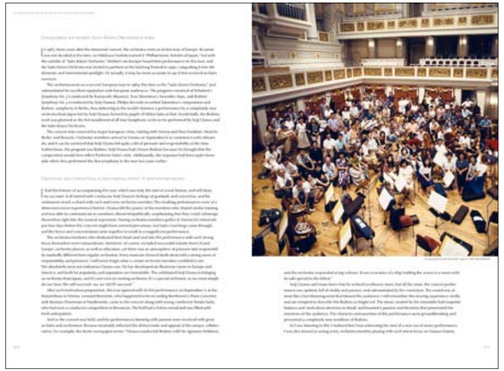
Saito Kinen Festival Matsumoto ｜ 2014 年

プログラム冊子



指揮者小澤征爾さん率いる、サイトウ・キネン・フェスティバル松本のプログラム冊子です。この年（2014）をもって、「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」は名称を変更し、「セイジ・オザワ 松本フェスティバル」となったため、最後の年のプログラムになりました。故・齋藤秀雄先生は教育者として、日本の西洋音楽を世界レベルに引き上げた礎をつくられました。その教え子である小澤征爾さんによって創設された記念碑的フェスティバルです。いまここであらためて、世界へ向け「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」の歩んできた歴史と質をしっかりと伝達するために、日本語版と英語版を完全に独立させ、「一つの物質」として冊子の質感を出来る限り高めました。

プログラムカタログ

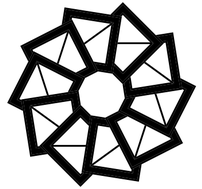


クリエイティブエキスポ 台湾2016
日本館〈国際イベント〉

CREATIVE EXPO TAIWAN 2016 ｜ 2016年

会場アートディレクション
グラフィックイメージ

「CREATIVE EXPO TAIWAN 2016」日本館ブースのアートディレクション、グラフィック制作を担当しました。
他の参加国は、台湾を筆頭にイギリスとデンマークです。主宰である台湾からの総合テーマは、アジアという東からの起きる風「東風」。台湾には「起源としてのお茶文化」、日本には「独自に発展した食文化」、イギリスには「アフタヌーンティ」、デンマークには「家具としての椅子」、という個別テーマが与えられました。さらに日本館では、「一汁三菜」「弁当」「祝膳」「個食」という四つの独自カテゴリーが設けられました。この4つのカテゴリーを家紋のようなシンボルマークに置き換え、総合テーマである「東風」を「色のゆらぎ」で表現し、フォーマルな形式と留まらないゆらぎによって会場を構成しました。シンボルの入った色彩の帯が会場で大きくゆらいで風を起こすように。4つのカテゴリーにはそれぞれ「食材のもっている色調」をあてがい、例えば茄子やホウレンソウはとても美しいグラデーションをもっています。ごはんや味噌汁にも、お正月の艶やかな食材達にも、びっくりするほど鮮やかな色彩があふれています。これら食材の色を水彩で描き、思いっきり5m引き伸ばし、特殊な捺染で大きなバナーができ上がりました。会場は天井の高い昔のレンガ倉庫でしたので、いつも風が通り抜けていて、大バナーをゆらしてくれていました。



パリ メゾン・エ・オブジェ
ジェトロ日本ブース〈国際イベント〉

Paris Masion & Object / JETRO ｜ 2008, 2009年

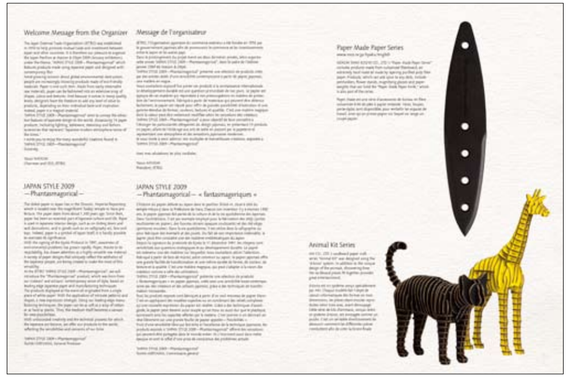
会場アートディレクション
カタログ

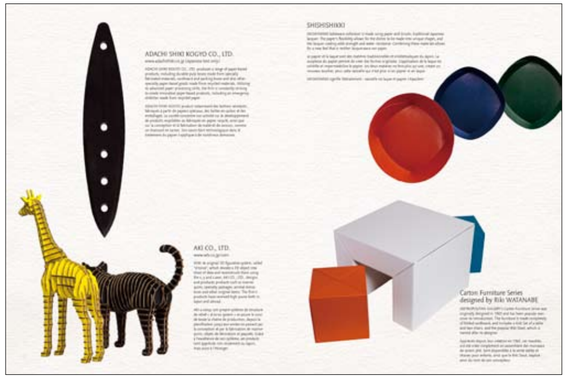
メゾン・エ・オブジェはインテリアに関する様々なデザイン物、製品がパリに集結する、世界最大級のインテリア・デザイン国際見本市です。日本を代表するジェトロ広報ブースのディレクションとカタログデザインを担当しました。2008年度のテーマは「In the Details」、日本を代表する17点の製品群に宿るディテール。技術の高さ故のディテールを最も美しく表現するために、各細部をタテ割にして敷き詰め、カーテンのように揺らめき波打つ質量となるように。翌2009年はすべて紙製品でした。スピーカー、ペーパーナイフまで紙で出来ているならばこちらも紙のパンフレットにしか出来ないイメージをつくろう、ということで、発想は押花です。製品を紙にはさんでおいたら、紙みたいにぺしゃんこになってしまった。だから、ページをめくると先程の製品の裏側が見えるのです。紙は薄っぺらいけれども奥深い。

会場演出（2008年）

カタログ（2008年）

カタログ（2009年）





アディダス・サロモン・Y-3〈スポーツアパレル〉

adidas, SALOMON, Y-3 ｜ 2004～2007年

ブランドディレクション
カタログ、リーフレット
店舗備品、販促アイテム

ドイツのスポーツブランドとしての歴史、そしてアディダスジャパンとしての革新を常にどこかに意識させるように、末端にいけばいくほど、ブランドのアイデンティティが明確になるツールを心がけました。最先端である「アディダス・パフォーマンス」、歴史であり起源である「アディダス・オリジナルス」、ヨウジヤマモトとのファッションブランド「Y-3」、スキーウェアブランド「サロモン」のカタログなど。

アディダス・カタログ（2005年）

アディダス・リーフレット（2004年）

アディダス・ガチャガチャ（2005年）

Y-3店舗備品（2006年）

サロモン・ブローシャー（2005年）

大塚食品「あ！あれたべよ」〈レトルト食品〉

Otsuka Foods "a! are tabeyo" ｜ 2005年

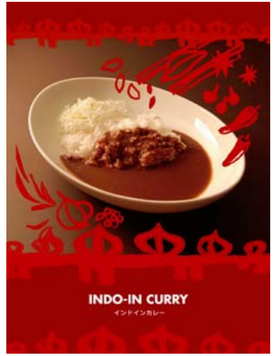
ブランドシンボルマーク・ロゴタイプ
パッケージ、包装、各種販促物

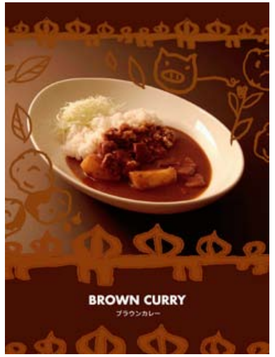
「あ！あれたべよ」は大塚食品のロングセラーレトルトカレーです。商品の過剰なリアリティを追求するような写真表現ではなく、経験の中に想起されるカレーの美味しさが引き出されるように、イメージをつくっていきました。キッチンや厨房に立ちこめるスパイスの香りや熱気を閉じ込めています。

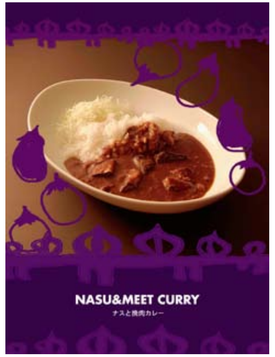
インドイン〈店舗〉

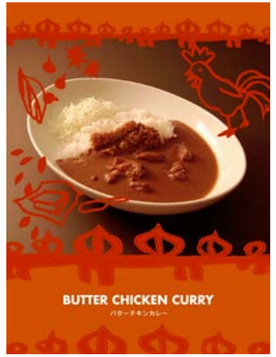
INDO-IN ｜ 2005年

総合ブランディング
ロゴタイプ
ブランドシンボルマーク
ポスター、各種販促物
パッケージ、包装
WEB サイト









オゾン「夏の大茶会」〈イベント〉

OZONE "Summer Tea Festival" ｜ 2007年

総合アートディレクション
ロゴタイプ
各種広告
会場プログラム
販促アイテム

リビングデザインセンター OZONE での「夏の大茶会」。高層ビルの建ち並ぶ都会で夏に行われる“大”茶会である。都会でも初夏には蝶が飛んでいる姿を見かけるが、特にアゲハチョウは蝶道と呼ばれる独自のルートで飛び回っているらしい。その沢山の蝶たちがノドの乾きを潤す為に、高層ビル群や路肩の緑地帯を抜け、パークタワーの大茶会というオアシスを目指してやってきたのでした。

ポスター

会場大型バナー

オゾン〈イベント〉

OZONE ｜ 2008年

DM

リビングデザインセンター OZONE での、大小様々なイベントの各種 DM 等を制作しました。

クラッシーサロン・スプリングパーティー／ DM ／新宿パークタワー

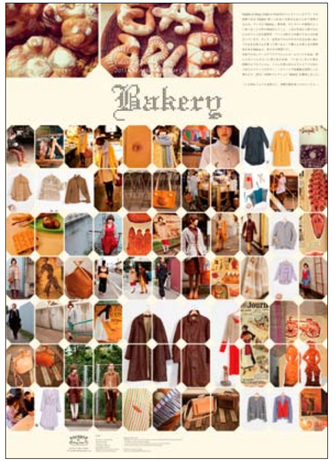
／東京デザイナーズウィーク@オゾン／ DM ／リビングセンター・オゾン

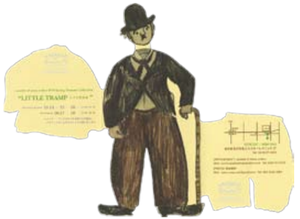
エタブルオブメニーオーダーズ〈ファッションブランド〉

Eatable of Many Orders ｜ 2007～2014年

DM、カタログ

Eatable of Many Orders は熱海を拠点に、毎シーズンごとに物語的なコンセプトに基づいた服やかばん等を発表しているファッションブランド。草木染めや刺繍、木工、彫金など、日本や世界の手仕事との共同作業も多く、そういった手ざわりが見えかくれするような仕掛け、そしてユーモアと驚きを必ず取り入れるようにしています。





世田谷区・安藤忠雄講演会〈イベント〉

Setagaya-ku ｜ 2007～2010年

ポスター

2007年、建築家としてはあまりにも有名で、安藤忠雄とは「名前」そのものでしかない。ANDO TADAO が街になりました。2008年は「顔写真を使用すること」という条件。これまたあまりにも有名な顔写真。鋭い眼力からどんぐりの木がつらつらと地を張って、大地を形成し、空が澄み渡り、森になって山になる。東京オリンピック招致にからんだのが2009年。コンパクトオリンピック、海の森計画、島国日本、オリンピックの五輪、この全ての要素を一つにして、小さな五輪島が海に浮かぶこととなりました。2010年は初の満面の笑顔写真が届きましたので、写真を大きくしてカットし、コンクリートの壁に貼ってから、チョークで周囲を楽しくしました。

2007

2008

2009

2010

ベネッセ・こどもちゃれんじ〈教材〉

Benesse ｜ 2006～2010年

教材、付録
販促資料、パッケージ

ベネッセ・こどもちゃれんじの各種子供用の教材です。
英語「Activity Book こどもちゃれんじ・すてっぷ English」では、表紙イメージは各月のテーマを切り絵で表現しています。

「のびのびアートブック」は子供が「きる！はる！」や「きる！はる！おす！」などするので、こちらも負けじと切り貼りと押すでつくりました。最後はびりびり、めためたになるくらい、勢いよくやってもらいたいです。

Activity Book こどもちゃれんじ・すてっぷ English

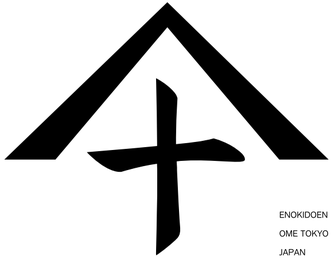
のびのびアートブック

東京都チャレンジ農業支援センター〈農業〉

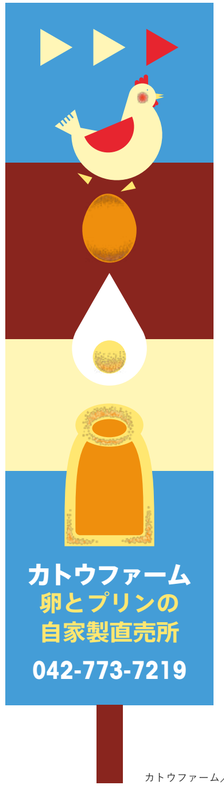
Tokyo ｜ 2013年 〜

総合ブランディング
ロゴタイプ、ブランドシンボルマーク
パッケージ
サイン計画

「東京の農業」、一瞬聞き慣れない言葉かもしれません。実は東京西部には生産農家の方々が多く、どの地域にも負けないような高品質農産物を作り続けています。ですが、そのほとんどが都市部で流通していません。そんな生産者の方々を支援する制度として、2013年に始まった「チャレンジ農業支援センター」でのお仕事です。日本での「広告デザイン」の歴史は、「市」に初まるとの説があります。デザイナーとして「第一次産業」に関われる事は長年の希望でもあり、最重要課題であると思います。生産者の方々と直接、日々難問にたのしく取り組んでいます。



榎戸園／園芸



カトウファーム／鶏卵農場

白石農園／農場

ミノールマルシェ／農場

瀧島農園／農場

田中園芸／園芸

久安／果樹園

森谷園／茶園

ぬくい果樹園／果樹園

かわなべ鶏卵農場／鶏卵農場

王子ペーパーライブラリー〈展示〉

Oji Paper Library ｜ 2011～2013年

展示企画・ディレクション
展示用各種制作物デザイン

王子ペーパーライブラリーは王子本社のギャラリースペースで行われる、紙のための展示です。毎回お題／問題が定義され、それに対してアプローチ／回答を試みます。私達は毎回、良い紙なのに売れない「流行遅れ」を担当しました。日本製品によくある事ですが、製品の品質は高いのですが、「見せ方」が上手じゃない。たとえば、色の紙の色見本。ある紙が「やぼったい」と言われていました。色は相対比較によって印象ががらりと変わりますので、並ぶ順番を変えたり、組合わせを変える事で、劇的に「お洒落」になったりします。元々もっている性質をよくよく観察して、別の可能性に飛躍させる、私達の得意とする仕事で、毎回試行錯誤して楽しみました。

アトリエタイクはデザイン会社ですが、受注デザイン業の他に、
下記のような事業もおこなっています。

1．民芸玩具のセレクトショップ
2．壁紙のプロダクトブランド
3．ブータン料理の飲食店（別法人）

これらはゼロから立ち上げ、企画、経営、運営、全てを行っています。
私達にとって実践の重要なケーススタディの場であり、
本業であるデザイン業務に実際の経験や感覚を活かしています。

民芸玩具のセレクトショップ

アトリエガング　Ateliergangu ｜ 2012年～

デザイン会社アトリエタイクが、全国から集めてきた民芸玩具のお店。張子、凧、独楽やけん玉など、その土地の風土に根ざし、さまざまな経緯を経て生まれてきた、愛すべき生活［非］必需品たちが並びます。デザイン会社の一画に店舗を構え、2015年からはwebショップもオープンしました。2017年より本格的にオリジナル商品開発を進めています。

ガングポストカード

壁紙のプロダクトブランド

ロゼボムンダル　Rose På Mölndal ｜ 2014年～

18～20世紀に中央ヨーロッパや北欧でデザインされたアンティークコレクションの印刷版を使い、19世紀パリ万博で発表された輪転印刷機「ロゼマシーン」で印刷した壁紙。表紙から見返しまで、この貴重な壁紙を贅沢に使用したノートブックができました。栞はスウェーデン製のリネン紐で、東京の製本所にて上製本で仕上げています。Made In Sweden & Japan プロダクトとして、文具、雑貨、家具などと、形を変えながら発展していくことになります。

Made In Sweden & Japan

オリジナルノートブック

ブータン料理の飲食店

ガテモタブン　GatemoTabum ｜ 2006年～

代々木上原の商店街にある、ブータン料理を提供する飲食店。「ガテモ」はブータンのゾン語で「ここはどこ？」の意味。たぶん、ブータン…こうして1匹の鳥がトウガラシをくわえて、ブータンから代々木上原にやってきたのでした。ひとつの小さな飲食店と文化・地域との関わりの中には多くの発見があります。こちらは飯島、臼田を役員とする別会社になりますが、企画、経営、店舗内外装デザイン、運営、全てを行っています。

会社概要

社　名：アトリエタイク株式会社
設　立：2004年
資本金：1000万円
所在地：〒151-0062東京都渋谷区元代々木町21-9 シルエット104
Tel: 03-5454-9466
Fax: 03-5454-9488
Mail: works@ateliertaik.com

ディレクター・デザイナー｜取締役

飯島麻奈美　Manami IIJIMA

1998. 多摩美術大学染織デザイン科卒業
1998～2001. 化粧品会社にて商品開発デザインチームに所属
2001. アトリエタイク創設
2004. 毎日広告デザイン賞／優秀賞受賞

ディレクター・デザイナー｜取締役

臼田香太　Kota USUDA

1999. 多摩美術大学美術学部芸術学科卒業
1999～2000. 同大学研究生
2001. アトリエタイク創設
2004. 毎日広告デザイン賞／優秀賞受賞
2006～2014. 四谷アート・ステュディウム

www.ateliertaik.com © 2018 Ateliertaik Co., Ltd.